



自治研修あきた No.82

発行 令和5年3月 発行者 秋田県自治研修所 TEL 018(873)7100



「一年間を振り返って」

秋田県自治研修所長 藤原 亨

新型コロナウイルス感染症が国内で発生してから3年以上が経過し、この間、自治研修所においても研修を中止せざるを得なくなったり、eラーニングやオンライン形式の研修へ切替えしたりするなど大きな影響を受けました。

今年度は、過去2年間の対応を踏まえ、完全オンライン形式、あるいは講師のみ離れた会場からインターネットでつなぎ、受講者は研修所等に集合してもらう形式を一部で導入したほかは、従来どおり研修所内での集合研修を実施することができました。

研修は新規採用職員研修から始まります。5月の連休を挟み全5回、県のほか市町村、地方独立行政法人など関係団体の新規採用職員が受講し、1回あたり70名から80名の参加で期間も5日間(市町村職員は4日間、団体職員は3日間)の長丁場の研修ですが、年度当初はオミクロン株が猛威を振っていたこともあり、マスクの着用、手指消毒、アクリル板の設置、定期的な換気、机椅子の消毒等、感染防止対策を徹底し、その間体調を崩す受講者がいないか十分注意を払いながら研修を実施しました。

その後、5月末から6月にかけて3年目研修、7月からは、課長級研修や管理監督者研修のほか、新型コロナウイルス感染症が発生して以降中止していた能力開発研修を3年ぶりに実施しましたが、この頃から、感染力がより強いBA.5へと置き換わりが進み、県内の感染者数も増加してきたため、従来よりも窓を開ける回数を増やしたほか、教室の机に設置していたアクリル板を撤去することで滞留する空気を少なくするなど換気の徹底を図りました。

研修後のアンケートでは、アクリル板の設置により資料を投影するスクリーンやホワイトボードが見にくいとの意見があり、撤去したことで見えにくいという問題は解決しましたが、秋になり気温が低下してくると、頻繁に換気を行うことで教室内が寒かったというアンケート結果も増え、対応に苦慮しました。寒い思いをさせた受講者の皆様には、大変申し訳なく思っているところです。

研修は県内外各地から参加があり、クラスターが発生した際にはその後の感染拡大のリスクも大きいため、どうなることか不安を抱えながらの実施でしたが、全ての研修を通じて、研修所職員が感染防止対策の注意喚起を徹底し、受講者の皆様からもその要請にきちんと対応していただいたおかげで、12月上旬に全研修を予定どおり実施することができ、ほっとしたところです。

皆様からの感染防止対策への御協力に対し、感謝を申し上げます。

(次項に続く)

さて、研修実施期間中、私も予定がないときには、可能な限り研修を聴講し、受講の様子を拝見しましたが、いずれの研修においても熱心に、前向きに受講されているのが非常に印象的であり、研修後に提出いただくアンケートでも「研修で学んだことを業務に役立てたい」といった記載を多く目にしました。

研修の内容を業務等に生かすためには、これは役立ちそうだった事柄について、どうすれば仕事と結びつけることができるか考え、必要に応じてテキストを振り返り、あるいは関係する書籍を読み更に深掘りするなど、常に意識しながら業務や日常生活の中に取り込んでいくことが必要となります。

大変お恥ずかしい話で反省を込めて申し上げますが、私も研修を受講した後、しばらくは研修の内容が頭に残っていても、業務が多忙になるにつれ研修で学んだことが徐々に頭から消えていき、業務にうまく生かしきれていないということが多々あったものですから、皆様も気をつけていただければと思います。

日頃の業務の中では、現場で実際に仕事を進めながら先輩や上司から仕事を教わる OJT(On The Job Training)により、経験を積み、自分のスキルを向上させていくことが多いと思われますが、研修所等職場とは離れた場所で実施するOFF JT(Off The Job Training)の研修においては、普段業務中では学ぶことのできない知識のほか、自分にどういう傾向があるのか、どんな強みや弱みがあるのかなど自分を分析し、見つめなおすという研修もあり、また、講義の内容から何かしら「はっと」気づかされるということもあります。

OJTでは身に着けることができない内容も多く含まれていますので、研修所での研修も活用いただき、OJT、OFF JT、そして自己啓発も含め様々な機会を捉えて、自己研さんに励んでいただきたいと思います。

また、今年度から、県職員の自己啓発活動を支援して資質の向上等を図り、県行政の円滑かつ効率的な推進に資することを目的として、公的資格の取得や研修を受講するための費用を補助する制度を実施しております。今年度は30件以上の利用があり、来年度も実施する予定ですので、是非御活用いただきたいと思います。

最後になりますが、今年度、業務多忙の中、能力開発研修(オンライン研修、eラーニングを含む)に参加する職員を快く送り出していただき、研修に参加しやすい雰囲気を作っていただいた職場の皆様の御理解、御協力に感謝するとともに、来年度も是非、積極的に研修に参加される職員を後押ししていただきますようお願いいたします。

☆研修の様子



新規採用職員研修(前期)



業務に役立つ法令の読み方研修

令和5年度に自治研修所で実施する研修

役職段階別指定研修（8科目）

新規採用職員研修【合同】
3年目職員研修【合同】
キャリア開発研修
主査級職員研修
管理監督職員研修
課長級職員研修
人事評価者研修
現業職員研修

組織力向上研修（3科目）

キャリアデザイン研修
メンタルヘルス（ラインケア）研修
ダイバーシティ研修（eラーニング）

市町村職員研修（6科目）

新規採用職員研修【合同】
3年目職員研修【合同】
主任級研修
監督者級Ⅰ研修
監督者級Ⅱ研修
市町村人事評価者研修

能力開発研修（25科目 および eラーニング）【合同】

主に一般職員向け（15科目）

行政法基礎
民法基礎
業務に役立つ法令の読み方【地区別】
（オンライン①）
データの見方・活かし方（オンライン②）
段取り力向上
ワンペーパー資料作成
伝わる話し方・説明の仕方
業務改善の進め方
基礎から学べる政策形成
発想力トレーニング
情報発信力強化
成功するプレゼンテーション（オンライン②）
クレーム対応力
レジリエンス向上（オンライン②）
アサーティブ・コミュニケーション

主に役付・管理監督職員向け（10科目）

実務に活かせる政策法務
財務3表一体理解・分析法
事業スクラップ
エビデンスに基づく政策立案（EBPM）
折衝・交渉力強化
Web会議スキル向上（オンライン②）
インバケットによる実践トレーニング
コーチング
働き方改革のための業務マネジメント
リスクマネジメント

eラーニング

選択研修（必修）の場合は、指定科目の中から
一定の科目数及び時間以上の受講が修了要件

※指定科目については令和5年度研修概要に掲載予定

（備考）

- 1 「能力開発研修」は、選択研修（必修）・応募研修
- 2 「合同」とは、県職員と市町村職員による合同研修
- 3 オンライン①：講師のみリモート、受講者は県北、中央（自治研修所）、県南会場で受講する分散型集合研修
オンライン②：講師及び受講者がリモートの完全オンライン研修

研修pick up～注目の研修を紹介します～

実務に活かせる政策法務

こんな人にオススメ！！

- 条例づくりの具体的な形成プロセスやノウハウを学びたい
- 条例・規則等の解釈の仕方に不安がある

今年度の様子

住民参加、協働による自治経営が必要な現在、条例づくりは政策実現手法として有効です。講師の松下氏は、自治体勤務で実際に条例づくりに携わった経歴をもち、その後大学教授として現代自治体論の教鞭をとってきました。

研修は、政策法務の基本パターンの習得のほか、作り始めて出会う不安を乗り越えるために、法律違反や重複がないかの確認方法、反対やクレームに負けない内容づくりなど、自らの経験に基づいた実務的な内容でした。

また、受講生には例題を考えてもらい、図解表現や、グループワーク、発表により、得点形式で投票のうえ最後に表彰するなど、楽しみながらスキルが大きく向上する内容となっています。

行政法基礎

こんな人にオススメ！！

- 許認可等の行政処分を担当している
- 行政法について興味がある

今年度の様子

行政法の概要と行政手続法の基礎知識を修得するため、中央大学法科大学院教授の大貫裕之氏を講師として研修を実施しました。

この研修では課題図書を読みつつ課題を事前に提出してもらい充実した研修としています。研修では2日にわたり行政法の基礎知識について学んだ後、実際の事例を題材にした問題についてグループワークを行いました。受講生自身が担当している業務に関連する法律も取り上げ、行政法の観点から留意すべき点についてお話があり、実践的な研修でした。

講師からの質問に対して受講生が答えていくやりとりがテンポ良く、会場は終始活発な雰囲気になっていました。



受講者の声

- ・実務的なアプローチにより、法務の基本を確認できた。
- ・研修のタイトルから想像した内容より、はるかにわかりやすく、講師の話が面白いので楽しく学ぶことができた。

- ・無意識に行っていた県民の方々とのやりとりが行政手続法に規定されている行為であることに気づきました。
- ・法律や条令、要綱に対する向き合い方、読み方、捉え方を学ぶことができて本当によかった。

基礎から学べる政策形成

こんな人にオススメ！！

- 政策形成の基本を身に付けたい
- 政策を作る体験をしてみたい

今年度の様子

「政策形成」とはといっても、どこから手をつけて、何をどうすればよいのか全くわからない。政策形成の基本から学んでみたい。そんな方にピッタリなのがこの研修です。

研修では、政策形成の基本的な考え方からスタートして、政策形成検討ステップ、具体的な分析手法についての説明の後に、各グループで実際に自分たちで一から政策を作り上げていく体験をしています。



現在、政策形成に関係する部署に所属している方はもちろん、これから関係する部署に行くことを想定して、今のうちに政策形成の基本を押さえておきたいという方にも是非オススメです。

折衝・交渉力強化

こんな人にオススメ！！

- 地域住民の理解と協力が欲しい
- 前例のない大きな交渉を任された

今年度の様子

組織のリーダーとして内外の関係者と信頼関係を構築して、お互いに納得しながら理解と協力を獲得する折衝・交渉力の強化を図る研修です。

交渉を行うにあたり、事前に必要な調査や根拠があること、相手を知るため話を聞く重要性、複数名での役割分担や場面想定について学び、成功する交渉のテクニックを習得しました。

受講者は、ケーススタディで交渉に臨む側、受ける側双方を演じ、自らの立場を有利に進める折衝術を駆使する一方、ともに事業を成功させたいという共通の目標が生まれていく過程を疑似体験することができました。

今後、難解な交渉にも十分な準備をして臨みたいと意欲を示す職員も多く、ワークを通じて受講者同士に多くの共感と満足感が得られたようです。

受講者の声

- ・実際に自分たちで一から政策を作り上げていく体験をすることで、政策形成プロセスについての理解が深まった。
- ・グループワークでは、他の受講者の意見を聞くことができた、体験しながら学べる点が良かった。

- ・一般常識について、改めて環境の違いで価値観が異なることに気づくことができた。
- ・交渉ことは「段取り8分」と言われるように、事前の情報収集、準備が大事とわかった。

派遣研修レポート

自治大学校派遣職員受講レポート(基本法制A＋第1部課程) 自治研修所 主任 渡部 聡之

1 はじめに

私は、10月に自治大学校に入学し、基本法制研修A第9期を約1か月、その後第1部課程第139期を約3か月受講し、2月に全ての課程を修了しました。

自治大学校では、北は北海道、南は沖縄まで全国から研修生が集まり、寮で共同生活をしながら、日々切磋琢磨しています。

「このカリキュラムについていけるのか。」「寮生活をうまくやっていけるだろうか。」「そんな不安な気持ちを抱えてスタートしたものの、始まってしまえばそんなことを考える暇もないくらい濃密、そして充実した4か月間でした。

このレポートでは、研修内容や研修を通しての学びをお伝えするとともに、自治大学校派遣の応募に興味がある方の後押しになればと思います。

2 基本法制研修A

基本法制研修Aでは、「憲法」、「民法」、「行政法」、「地方自治法」、「地方公務員法」、「財政学」を講義・演習形式で約1か月間かけて学びます。短期間で広範囲を学ぶため、時間割は朝9時半から夜6時半までびっしりと埋まっており、講義はかなりハイペースで進んでいきました。事前課題でそれなりに予習をしたつもりでしたが講義についていくのは必死で、並行してグループでプレゼン資料の作成もこなすという、なかなかハードな毎日でした。その分、多くの知識を習得し、見識を深めることができました。

最終週には効果測定がまっており、寮の仲間と過去問を共有したりしながら、まるで学生の試験期間のように勉強に励みました。

3 第1部課程

第1部課程の講義は、財政、福祉、観光、防災、まちづくりなど約40科目あり、非常に幅広い分野について学びます。第一線で活躍されている著名な講師陣から、各分野の最新の情報を得られる非常に贅沢な環境でした。

また、自治大学校のカリキュラムでは、「自ら考え、判断し、相手に説得力を持って伝える」ことを重視しています。そのため、講義によるインプットだけでなく、演習・発表によるアウトプットに多くの時間を割いています。条例案を一から作成する条例立案演習、新規採用職員研修を想定して15分間の講義を行う模擬講義演習、さらには地方自治体の課題についてグループ対抗で討論するディベート演習など、多くの実践的な演習科目が用意されています。

このように、人前で話す、議論する、相手に伝えるといったことを徹底的に行います。最初は緊張の連続で、うまくできない自分に歯がゆさを感じていましたが、「研修はいくら失敗しても大丈夫。ひとつでも身に付くことがあればOK」と気持ちを切り替えて臨みました。実践することで得られる気づきが多くあり、自分自身を客観的にみることでできた貴重な経験でした。

また、この課程のメインである政策立案演習では、小グループに分かれ、約90時間の演習のなかで自ら設定したテーマについて政策研究を行い、報告書の作成、発表まで行います。さらに、政策の新規性、実現可能性を求められるため、ハードルは高く感じました。夜遅くまで議論を重ねていくなかで、メンバーのそれぞれ異なる意見・視点が合わさり相乗効果を生み、予想を超える成果を生み出すことができました。限られた時間のなかで、グループ一丸となって最大限のものを作り出せたことは、何ものにも代えがたい達成感がありましたし、これからの仕事にも必ず生きてくるものでした。



(政策立案演習表彰式)

(次項に続く)

4 自治大学校での収穫

全国から派遣された多くの仲間と出会い、寮生活を共にするなかでたくさんのお話ができたこと、これが間違いなく自治大学校での一番の収穫です。

研修生は、年齢も30代前半から40代後半と幅広く、職種、経歴も異なるメンバーが集まっています。しかし、同じ研修生としてフラットな関係で、お互いの自治体の状況や課題について、職場ではなかなか話せないことも素直に語り合うことで、多くの発見がありました。

そして、みなさん前向きで、やる気に溢れ、とても個性的。そんな仲間の真摯な姿勢や自由な発想はとても刺激になり、私の世界観を広げ、仕事に対する価値観を大きく変えてくれました。プライベートでも寮の仲間からランニングを勧められ、普段全く運動をしない私も毎日5キロのランニングをはじめてみたり、中間発表会の打ち上げでは尺八とエレキギターの未知のセッションに挑戦してみたりと、お互いのいいところを吸収しながら、多くの時間を共有することでたくさんの思い出ができました。

5 おわりに

自治大学校での学び、仲間との出会いは、人生の財産になりました。長期間業務から離れ、学びに集中させてもらえる貴重な機会を与えていただいたことに心から感謝しています。派遣に少しでも興味があるという方は、思い切って希望してみてください。必ず得るものがあります。



(中間発表会の打ち上げ)



(基本法制研修のメンバー)

自治大学校派遣職員受講レポート(基本法制A＋第1部課程)

自治研修所 主任 菅原 麻耶

〇はじめに

自治大学校は、総務省設置による地方公務員に対する唯一の中央研修機関で、東京都立川市にあります。毎年全国の地方公共団体から様々な学歴、職歴、年齢、職種の研修生が集い、敷地内の寄宿舎で共同生活を送ります。

秋田県では毎年度1～2人が、約1ヶ月の「基本法制A」研修及び約3ヶ月の「第1部課程」研修に参加しています。

私は、昨年10月に基本法制A第9期生として、その後、第1部課程第139期生として研修を受講し、2月15日に修了式を迎えました。

〇「基本法制A」研修

基本法制研修は、続く第1部課程の基礎となる、憲法、行政法、民法、地方自治制度、地方公務員制度、財政学の6科目を講義や演習で習得する内容となっています。

研修の最後には効果測定、若しくはレポート提出があり、講師や法学部卒・法制担当歴有りの研修生に教えを請いながら、学生に戻ったような勉強の日々を送りました。

研修日程上は所々に休講時間はありませんでしたが、自主的なグループ演習時間に費やすことも多く、あまり余裕は感じられませんでした。

〇「第1部課程」研修

第1部課程は、政策法務、災害危機管理、自治体DX、多文化共生など、政策形成能力を高めるための公共政策、地方公共団体を巡る最新の話題を取り上げる講義、データ分析・事例・条例立案・ディベート型・政策立案演習により、自ら調べ、考え、判断し、その結果を説得力を持って伝える、これらの訓練に主眼が置かれた編成になっています。

(次項に続く)

第1部課程のメインとなるのが政策立案演習で、約6名で編成される班毎に特定の政策課題をテーマに掲げ、自治体のトップに提言することを想定し、30頁の報告書を作成、自治大の教員や総務省OBの前で発表するというものです。今期から政策提言する自治体から生の声を聞くことが必須とされており、より実現性の高い政策立案が求められました。

90時限以上の長期戦で、上下関係のない間柄の中で方向性や意見をまとめることの難しさを感じたり、お互いの進捗状況を比べて遅れないかハラハラしたり、精神的・身体的にも厳しい時期もありましたが、政策立案の同じ班、寮の同じフロアで暮らした研修生と励まし合い、お互いの強みを発揮し助け合いながら乗り越えることができました。最も大変な演習でしたが、かけた時間以上の充実感を得られるものだったと思います。

○両研修を通して

基本法制研修A、第1部課程ともに講師はそれぞれの分野の第一人者で、最新のお話を聞き、直接質問することができます。また、講義の時間だけでなく、朝夕、休日においても、研修生から各自治体の状況について聞く事ができます。

このため、研修中はこれまでの自分自身や周囲を振り返り、見つめ直し、不足や強みを知り、あり方などを考えることができました。通常業務のみでは得がたい経験をさせてもらえたと思います。

研修の大変さばかり述べてしまっているような気がしますが、自由時間もちゃんとあります。

全国各地のご当地グルメを肴に語り明かしたり、高尾山や日光、川越など関東周辺を巡る旅行、スポーツ大会を企画したり…同じフロアの研修生とたくさんの思い出をつくることができました。

自治大での貴重な経験と苦楽を共にした仲間が全国にできること、これが何よりの財産だと感じています。

○最後に

私は元々、令和3年度に自治大学校へ行く予定でしたが、コロナ禍により見送られ1年越しの実現となりました。

研修派遣が無くなった際、翌年度改めて派遣される意向があるかを確認され、(モチベーションが保てるかの不安もあ

り)他に希望者がいるのであれば辞退しますとお伝えしていたのですが、当時の中田所長が「とても貴重な機会だから、絶対に行った方が良い！」と強く後押ししてくださいました。

あのアツいプッシュが無ければ、今のよう全国各地の繋がりを持つことはできなかったと思います。

この場を借りて、感謝申し上げます。

また、派遣されている間、業務を引き継いでいただいた職場の上司・同僚、激励とご指南をいただいた先輩たちにも、心から感謝申し上げます。

最後に、今後自治大学校に派遣される方、派遣研修にご興味がある方へ。私の知る範囲ではありますが、お伝えできることもあるかと思いますので、気になることがあれば是非お声がけください。



(ボッチャ大会)



(高尾山登山)



(講義での一コマ)